上郷の家

母屋と暮らす構え

敷地内に各世帯の家、離れ、倉庫の複数を含んだ構成が多く存在する地域に、建主のご実家（父と祖母の二人暮らし）がある。この敷地内に夫婦＋子供２人の住宅を建てる計画。

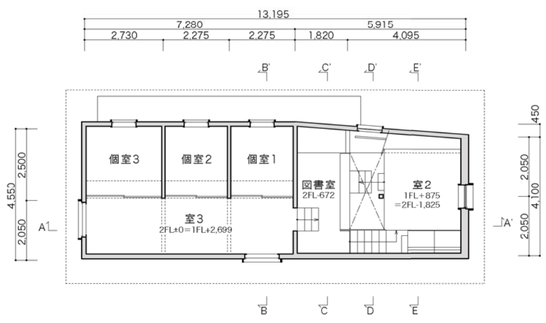
母屋、離れ、垣根、農機具庫で囲まれた静穏な中庭と母屋・離れの間を通り抜ける心地よい風を受けて、この状況を肯定した関係性を築くこととした。そのため、南西側隣地に立つスレート波板の工場を自然に隠すことで、母屋と離れと中庭との関係を親密にしていた農機具庫の場所に矩形の細長いボリュームを置いて、母屋を含めた周辺に建つ住宅、母屋と中庭との関係、プロポーションを考慮して７寸勾配の切妻屋根とした。

東海地方では、実家の敷地内に若夫婦の家を建てるケースが多く存在する。魅力的な事柄だけれど、多くの場合、母屋との関係性は希薄で生産性に特化した住宅が、隣家との関係と変わらない建ち方をしている。意識的に関係性を断ち切るような建ち方も見受けられる。これらを否定して、生活の全てが母屋と共にあるような建ち方にも、息苦しさを感じてしまう。そのため、矩形の長辺方向（母屋面）に対して細かく分割したボリュームを、一筆書きの様に下から上へと流動的に床・天井の高さを変化させた隣接型として、中庭と母屋との関係性が各々に築けるようにした。それは、中庭という吹き抜け空間を有した室を通して、各々に母屋との関係を作るような感覚に近いのかもしれない。

また、床・壁・天井・開口部のプロポーション、素材、ディテール等の空間要素を各所で使い分けたり、混合することで、空間や空間領域に個性を持たせながら柔軟性や両義性のある場となることを目指した。

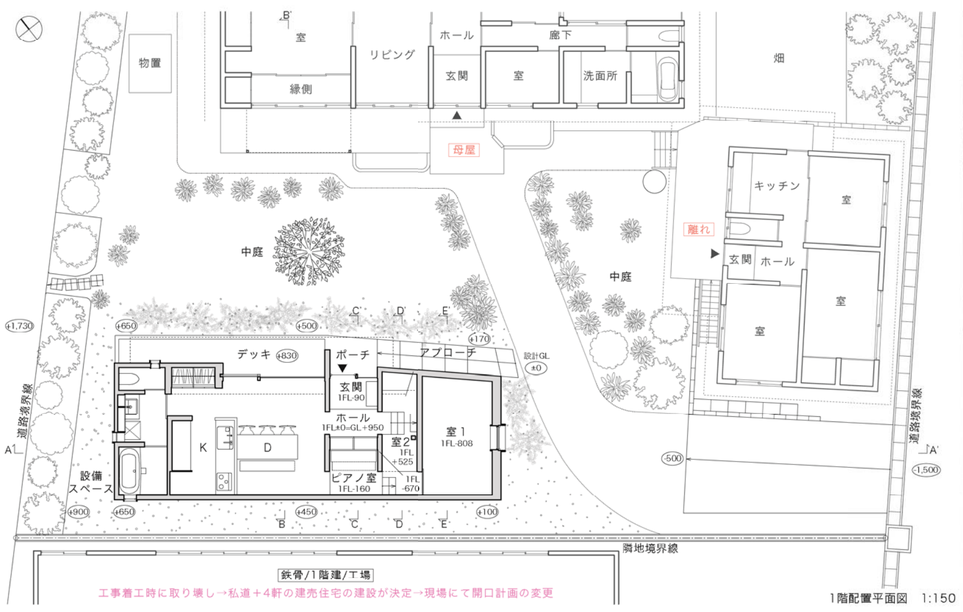
南東側全景。母屋側軒の出を長くすることで、自然なアプローチの明示や、母屋と中庭との間に緩やかな繋がりを持たせている。スギ板張りの外壁には、内部の空間構成を伝えるための縦長窓を設けている。

北東側全景。母屋から見る。軒下端から地面までは約4m。



2階平面図　1:150

広域配置図　1:2000

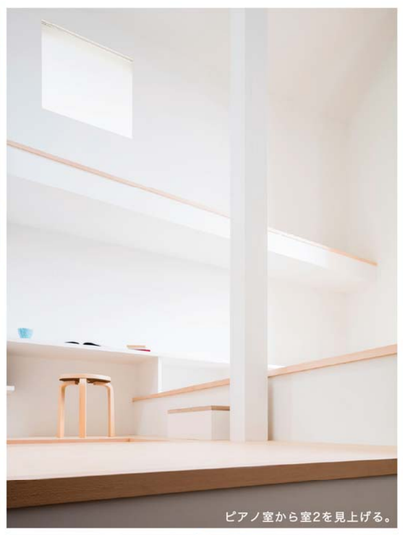


1階配置平面図　1:150

離れから中庭を見る。自然光と風通の確保に配慮しながら、母屋、離れ、生垣とともに中庭を囲む。

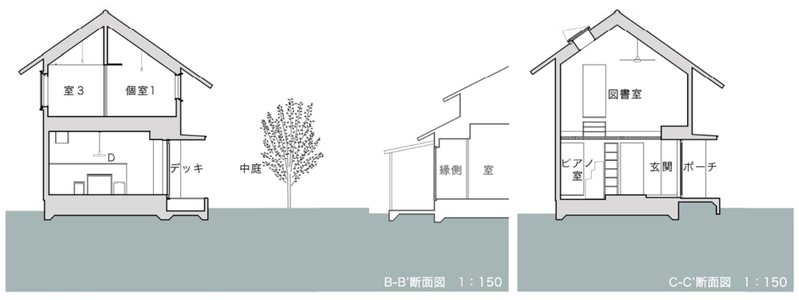
キッチンから中庭を見る。

室3から個室1、図書室を見る。

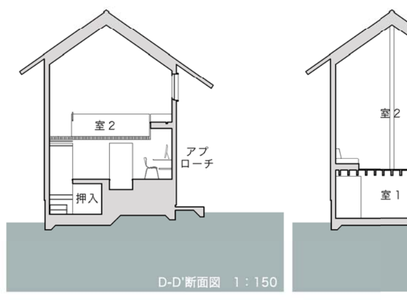


ピアノ室から室2を見上げる。

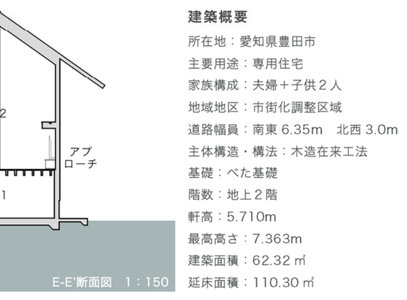
矩形の南東面からポーチにかけて斜めカットすることで、外部では南東面のプロポーション、自然なアプローチ、母屋との親和性をプラスへと押し上げている。内部では棟木位置がズレることで、2F の個室が成立できる床面積を確保し、室３と個室の最小天井高さが 1,800mm から 1,485mm に変化することで、建物のクライマックスに向けて重心を低く抑え、開口によって母屋を「見下ろす感覚」ではなく「見守る感覚」を与えている。



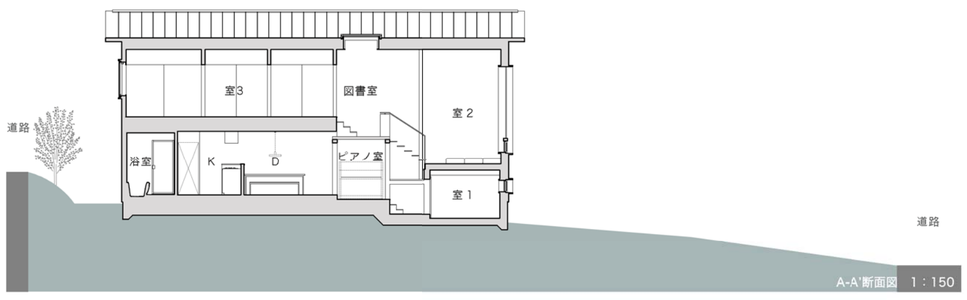
キッチンから室２、図書室を見る。



図書室



室3から図書室、室2を見る。

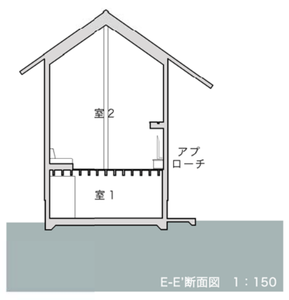


A-A'断面図　1：150

B-B'断面図　1：150

C-C'断面図　1：150

D-D'断面図　1：150

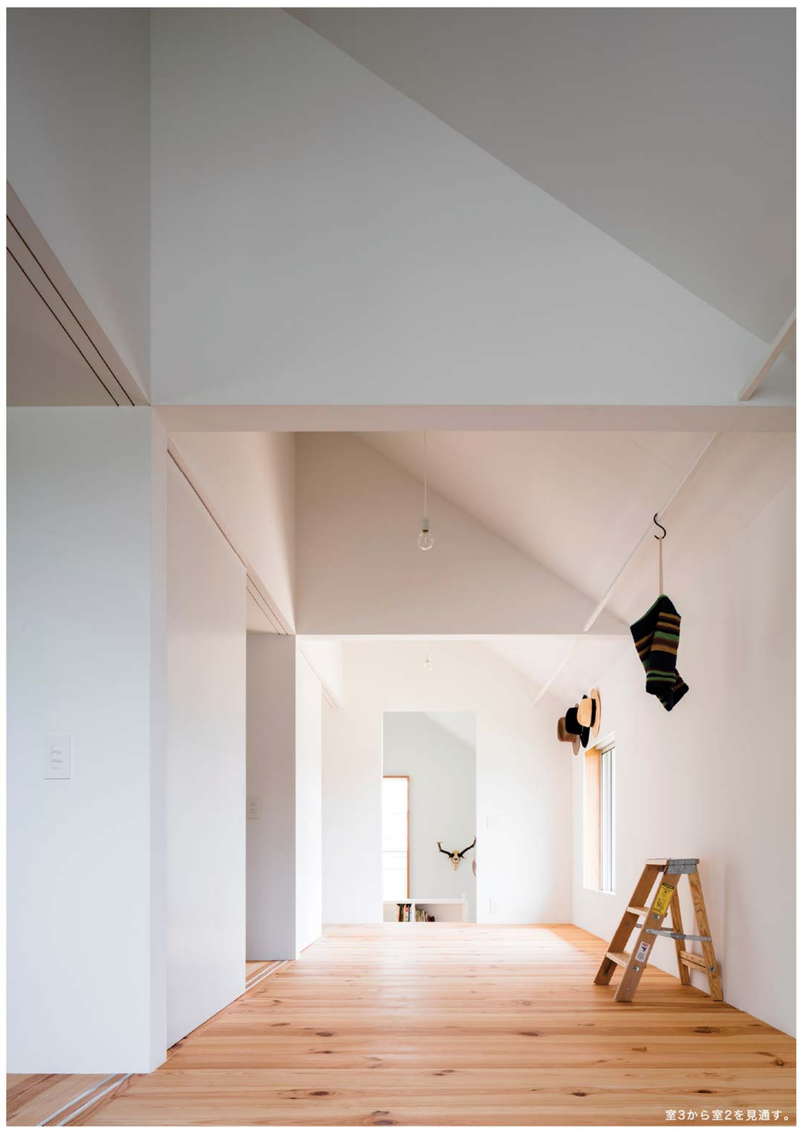


E-E'断面図　1：150

建築概要

所在地：愛知県豊田市
主要用途：専用住宅
家族構成：夫婦＋子供２人
地域地区：市街化調整区域
道路幅員：南東 6.35m　北西 3.0m
主体構造・構法：木造在来工法
基礎：べた基礎
階数：地上２階
軒高：5.710m
最高高さ：7.363m
建築面積：62.32 ㎡
延床面積：110.30 ㎡

室2からダイニング、図書室を見る。1,2階ともに、建物の端から端まで見通すことができる。



室3から室2を見通す。